

平成16年度 山口県高等学校バスケットボール新人大会兼山口県体育大会
 <決勝リーグ 戦評>

H17年(2005年)1月21日(金)・22日(土) 宇部市俵田翁記念体育館

女子決勝リーグ 21日(金)	誠 英	68	$\left\{ \begin{array}{l} 22 - 5 \\ 20 - 22 \\ 15 - 11 \\ 11 - 16 \end{array} \right\}$	54	宇部商業
-------------------	-----	----	---	----	------

誠 英 #4市川 #11田中 #12室本 #13重森 #14西田
 宇部商業 #4内 #5金谷 #7柴田 #8竹本 #9江本

主審：藤本 久志
 副審：重政由佳里

共にマンツーマン。誠英はフレアースクリーンからオフェンスを組み立てるが、単純なミスが目立ち得点できない。厳しいDEFから速攻に行くが、宇部商もよく帰り開始4分で3 - 3。しかし、じわじわとDEFが効き始め、#4や#14の得点で22 - 5で1Q終了。2Qに入り、宇部商中川コーチの指示は「逃げずに戦え。」宇部商はよく戦い、#4の3Pなどで開始4分には26 - 12と盛り返す。残り2分36 - 23となったところで宇部商はゾーンプレスから1 - 3 - 1のゾーン。プレスはよく効くがあと一步のカットができない。42 - 27で前半終了。3Qは共にマンツーマン。共にシュートミスで膠着状態が続く。57 - 38でこのQを終わる。最終Q、宇部商は再びゾーンプレスからゾーン。よく効き開始4分には59 - 45。中川コーチ「まだ分からんぞ。諦めるな」宇部商よく攻めシュートまで行くが入らない。「勝ち負けを意識せず1点ずつ。3Pにこだわるな」と中川コーチ。よく最後まで戦うが惜しくも68 - 54と王者誠英に敗れた。

女子決勝リーグ 21日(金)	徳山商業	52	$\left\{ \begin{array}{l} 15 - 14 \\ 11 - 13 \\ 11 - 9 \\ 15 - 7 \end{array} \right\}$	43	慶 進
-------------------	------	----	--	----	-----

徳山商業 #4山本 #5坂田 #6小森 #7高倉 #13河野
 慶 進 #4獄森 #5山本 #6岩男 #8中津 #9松本

主審：松本 理
 副審：中本 朋仁

1Q、両者マンツーマンDEFでスタート。どちらも立ち上がり重い。徳商は苦しみながらも得点につなげるが慶進は決めることができない。開始5分で13 - 3と徳商リード。慶進は何とか#7の3Pなどで追い上げるが15 - 14の徳商リードで終了。2Q慶進#5のジャンプシュートで逆転してスタート。その後お互いにミスが続く3分間ノーゴール。徳商は#7のドライブ、慶進は#4の3P、#5のドライブで得点し、26 - 27と慶進リードで前半終了。3Q、5分間で徳商の1ゴールのみ。一進一退が続く37 - 36の徳商リード。4Q、慶進は#7の3P、#5のドライブで37 - 41と逆転する。徳商は#5でつなぎ、残り5分で41 - 43とする。慶進は残り3分、チームファウルが5つとなり、フリースローを与えてしまい、43 - 43の同点とされる。徳商#13#4の3Pが決まり49 - 43となる。徳商はファウルで得たフリースローを決め、52 - 43と徳商が一勝目を上げ幸先のよいスタートを切った。慶進は立ち上りの悪さが、一試合を通じて響いた形となった。

女子決勝リーグ 21日(金)	誠 英	50	$\left\{ \begin{array}{l} 14 - 19 \\ 8 - 16 \\ 18 - 9 \\ 10 - 20 \end{array} \right\}$	64	慶 進
-------------------	-----	----	--	----	-----

誠 英 #4市川 #11田中 #12室本 #13重森 #14西田
 慶 進 #4獄森 #5山本 #6岩男 #8中津 #9松本

主審：弘中 勤
 副審：網屋みちる

1Q 両者マンツーマンでスタート。誠英は#4以外の1年生がミスを連発しリズムに乗れない。誠英はフレアースクリーンから、慶進はピックアンドロールからチャンスをつくり、14 - 19慶進リードで終了。2Q誠英のミスが続くチームファウルも早々に4つとなる。特にポイントガード#11のミスが目立つ。オフェンスは#4の1対1に頼らざるを得ない。慶進は#5のジャンプシュートやフリースローで22 - 35とリードを広げて前半終了。

3Q 後半に入ると一転して慶進のリズムが悪くなり、開始4分で30 - 37と追い上げられる。慶進#9も4ファウルでベンチに下がる。更に誠英が追い上げ40 - 44で終了。4Q、慶進#8がバスケットカウント、#9が3Pを決めれば、誠英も#4がバスケットカウント、#11が3Pを決め返し、両者一步も譲らない。しかし、誠英はチームファウルがかさみ、フリースローを与えてしまい、48 - 58とリードを広げられてしまう。慶進は1 - 4から#5#8がシュートを決め、50 - 64と誠英から白星を挙げた。誠英1年生のミスが目立ち、誠英らしいバスケットができないまま終わってしまった。

平成16年度 山口県高等学校バスケットボール新人大会兼山口県体育大会
 <決勝リーグ 戦評>

H17年(2005年)1月21日(金)・22日(土) 宇部市俵田翁記念体育館

女子決勝リーグ 21日(金)	徳山商業	45	17 - 12	44	宇部商業
			7 - 9		
			11 - 17		
			10 - 6		

徳山商業 #4山本 #5坂田 #6小森 #7高倉 #13河野
 宇部商業 #4内 #5金谷 #7柴田 #8竹本 #9江本

主審：尾中 優子
 副審：平田 一昌

共にマンツーマン。宇部商は速攻からの#8#4の3Pで6 - 0とリード。徳山商は#5のドライブや#7#13の3Pで追い上げ4分には逆転。突き放すところでフリースローが落ち1Qを17 - 12で終了。2Qは共に決め手を欠き、5分で18 - 15。宇部商は#8の3Pなど、早い攻めからの得点、徳山商は#8の1対1で得点し24 - 21で前半終了。3Qに入り、宇部商はゾーンプレスから1 - 3 - 1のゾーン。これが功を奏し2分で24 - 24と追いつく。その後も積極的に1対1を仕掛けフリースローをもらう。徳山商はショートコーナーにボールを入れ、1対1やハイポストとの合わせでゾーンを攻める。シーソーゲームが続きも、35 - 38と宇部商リードで終える。4Q、宇部商は引き続きゾーン。徳山商はよくローハイと合わせ4分には39 - 38。宇部商はマンツーマンに変え6分まで39 - 38のまま。宇部商再びゾーンにし、残り3分に39 - 40とリード。徳山商#13の3Pで逆転。残り1分、42 - 44で宇部商リード。徳山商今田コーチ「とにかくしっかり守れ。そうすればチャンスは来る」その通り徳山商はパスカットに成功し、#7が3Pを決めた。宇部商はゴール下もはずれ、中国大会出場に向け痛い試合を落とした。

女子決勝リーグ 22日(土)	宇部商業	54	17 - 17	62	慶進
			7 - 18		
			13 - 10		
			17 - 17		

宇部商業 #4内 #5金谷 #7柴田 #8竹本 #9江本
 慶進 #4嶽森 #5山本 #6岩男 #8中津 #9松本

主審：松本 理
 副審：尾中 優子

お互いマンツーマン。1Qは一進一退の攻防で互いにゆずらず、17 - 17のイーブンで終了する。2Qに入り、慶進の強いディフェンスに対し宇部商はミスを連発し、慶進にイーザーレイアップを許す。これが響き前半24 - 35と慶進がリードし終了する。3Q、宇部商は1 - 2 - 1 - 1のゾーンプレスから1 - 3 - 1のゾーンにディフェンスをチェンジ。慶進はこれを攻めあくみ得点が伸びないもののディフェンスを踏ん張り宇部商にも得点を許さず、37 - 45と8点のリードを保って4Qをむかえる。最終Q、3Qと同様に慶進は得点は伸びないものの宇部商にも得点させないといった形で進んで行く。宇部商は残り3分で積極的にダブルチームを仕掛け打開をはかると、慶進のディフェンスを崩すとこまで行かず結局54 - 62で慶進が勝利を収めた。

女子決勝リーグ 22日(土)	誠英	44	8 - 16	76	徳山商業
			16 - 13		
			4 - 19		
			16 - 28		

誠英 #4市川 #11田中 #12室本 #13重森 #14西田
 徳山商業 #4山本 #5坂田 #6小森 #7高倉 #13河野

主審：高木 直樹
 副審：網屋みちる

お互いハーフコートのマンツーマンディフェンスだが、徳商は2番ポジションをオープンにしヘルプ重視のディフェンスをする。このディフェンスに対し誠英は外角が当たらず得点が伸びない。徳商はゴール下にスペースを広く取りハイポストのスクリーンを使いながら、カットインやドリブルインで加点。オフェンスリバウンドも頑張り16 - 8と徳商がリードして1Q終了。2Q、誠英はオフェンスをハイロープレーに変え、インサイドにパスをつなぐ。#13の3Pもあたり、ついに逆転する。しかし、ゴール下のイーザーシュートを外したことが影響してか、それまでのいいリズムが崩れ徳商が再逆転。29 - 24徳商リードで前半終了。

3Q、徳商は誠英のオフェンスにアジャスト。インサイドのパスに対してヘルプを強め、ローポストに対してはダブルチームを仕掛ける。これが成功し誠英は攻め手を失い、インターセプトを連発、徳商がリードを広げ48 - 28と2マークのリードで最終Qをむかえる。4Q、徳商に傾いた流れは如何ともし難く、おまじいようにシュートを決め、終わってしまえば76 - 44。思わぬ大差で徳商が優勝を飾った。

平成16年度 山口県高等学校バスケットボール新人大会兼山口県体育大会
 <決勝リーグ 戦評>

H17年(2005年)1月21日(金)・22日(土) 宇部市俵田翁記念体育館

男子決勝リーグ 21日(金)	豊 浦	72	7 - 20	67	宇部工業
			24 - 16		
			26 - 13		
			15 - 18		

豊 浦 #9田中 #10坂根 #11河本 #12岸田 #14三池
 宇部工業 #4三田 #5岩木 #7池野 #9藤井 #13吉山

主審：高木 直樹
 副審：中村 秀昭

1Q、両者マンツーマンでスタート。宇部工業#5の3Pで先手を取る。豊浦は徹底したディナイDEFをしすが、宇部工のパスティングオフenseに揺さぶられる。また逆に宇部工のDEFに対し外角のシュートが入らず苦戦を強いられる。波に乗れず7 - 20で終了する。2Q、何とか食い下がる豊浦だがミスが出て流れがつかめない。ナンバープレイで#9を使い流れを引き寄せ。一進一退で進むが、宇部工の足が止まったところプレッシャーDEFで一気に詰め寄り36 - 31で前半終了。3Q宇部工のパスティングからの1対1に対し、豊浦は#14の1対1からの攻撃で互角の攻撃を仕掛ける。豊浦のトラップDEFに宇部工ミスが連続し49 - 57の豊浦8点リードで終わる。4Q、一進一退が続くが、宇部工セットオフenseからのドライブからの合わせて残り3分同点に追いつく。4ファールの豊浦に対し果敢に1対1で挑む宇部工だが、シュートが決まらない。対する豊浦は#11や#12が外角からのシュートを決め逃げ切った。

男子決勝リーグ 21日(金)	下松工業	65	13 - 22	77	岩国工業
			23 - 13		
			8 - 24		
			21 - 18		

下松工業 #11荒川 #12松永 #14綾部 #15棟近 #17田中
 岩国工業 #4柿本 #5松永 #6朝来野 #7井原 #8藤嶋

主審：河村 正夫
 副審：藤井 正則

両チーム、マンツーマンでゲーム開始。下松工はDEFリバウンドが取れず苦しい展開。一方岩国工は着実に得点リズムをつかむ。1Qは13 - 22で岩国工がリード。2Q、岩国工はメンバーを総入れ替えするが、ミスを連発する。下松工はリバウンドが取れるようになり、#7のシュートなどで徐々に点差を縮めていく。リズムを取り戻した下松工は#14のジャンプシュート等で得点を重ね、36 - 35と下松工が逆転して前半終了。3Q 岩国工はメンバーを戻すと、ルーズボールとリバウンドで下松工を圧倒。得意の速攻で再逆転し、更に点差を広げ44 - 59で終了。4Q、下松工はオールコートからプレッシャーをかけ、最後まで意地を見せるが点差を縮めることはできず、65 - 77で岩国工が勝利した。

男子決勝リーグ 21日(金)	豊 浦	113	26 - 14	77	下松工業
			37 - 18		
			23 - 14		
			27 - 31		

豊 浦 #9田中 #10坂根 #11河本 #12岸田 #14三池
 下松工業 #11荒川 #12松永 #14綾部 #15棟近 #17田中

主審：勝原 芳徳
 副審：大谷 昌克

両者マンツーマンでスタート。豊浦はラン&ジャンプから速攻と、#11の1対1で得点を重ねる。下松工は#14の1対1で得点するがなかなか伸びず、残り2分でタイムアウト。タイムアウト後下松工2 - 2 - 1のゾーンプレスを仕掛けリズムを変えようとするも、流れを変えるまではいかず26 - 14で終了。2Q、出だし、豊浦は3Pと速攻で一気に突き放しにかかる。一方下松工は#18の連続3Pで食い下がるが、豊浦の勢いは収まらない。前半63 - 32。3Q、豊浦はパスランを中心にオフenseを組み立てる。下松工はイージーシュートが入らず点が取れない。残り6分、豊浦は#9を変えて1年生5人で戦う。下松工、豊浦共に1年生5人。1年生大会が6分間行われた。86 - 46。4Q、豊浦はオールメンバーチェンジ。下松工はゾーンにDEFを変えて戦う。下松工やや盛り返すも113-77で豊浦の勝利。

平成16年度 山口県高等学校バスケットボール新人大会兼山口県体育大会
 <決勝リーグ 戦評>

H17年(2005年)1月21日(金)・22日(土) 宇部市俵田翁記念体育館

男子決勝リーグ 21日(金)	宇部工業	66	16 - 17	68	岩国工業
			12 - 12		
			26 - 10		
			12 - 29		

宇部工業 #4三田 #5岩木 #7池野 #9藤井 #13吉山
 岩国工業 #4柿本 #5松永 #6朝来野 #7井原 #8藤嶋

主審：有澤 重行
 副審：内田 昭紀

両チームマンツーマンでスタート。宇部工はしっかりとパスを回し相手のマークが外れたところで3Pを決め得点。一方岩国工は速攻から次々とドライブを仕掛け、相手のファールを誘う。フリースローを着実に決め得点を重ねていく。一進一退の攻防が続く。前半を28 - 29で終了。

3Q立ち上りにゲームが動く。宇部工は#4の4連続得点で突き放しにかかる。タイムアウト後も流れは変わらず、宇部工#7#13の3Pで得点を追加し、54 - 39と大きくリードして終了。4Q、岩国工はオールコートでプレッシャーをかけ、相手のパスミス誘う。ルーズボールも頑張り#5#14の3Pで徐々に点差を縮め、残り4分で63 - 58と詰め寄る。タイムアウト後も流れは完全に岩国工。岩国工#5がミスマッチをつき、ポストプレイからの得点でついに63 - 65と逆転する。残り1分を切り、宇部工#4がフリースローを決め65 - 65と同点。しかし岩国工は再び#5のインサイドで得点し65 - 67。残り13秒、66 - 68で宇部工ボール。#13の3Pで逆転を狙うがリングに嫌われゲームセット。岩国工が逆転勝利した。

男子決勝リーグ 22日(土)	宇部工業	79	18 - 14	33	下松工業
			13 - 7		
			30 - 6		
			18 - 6		

宇部工業 #4三田 #5岩木 #7池野 #9藤井 #13吉山
 下松工業 #11荒川 #12松永 #14綾部 #15棟近 #17田中

主審：河村 正夫
 副審：高部 貴徳

ディフェンスは宇部工はオールコートマンツーマン、下松工はマンツーマンとゾーンの併用でゾーンは2-2-1ゾーンプレスから2-3ゾーンでスタート。1Q、宇部工は#4、#7の3Pに対し、下松工は#12の1on1、#17#18がリバウンドで対抗するが、18-14宇部工リードで終了。2Qに入り、宇部工は#4のスティール、3Pで得点をかさねるが、下松工もインサイドを中心に7分までは21-23の2点差でついていく。残り3分から宇部工が下松工のディフェンスにしっかり対応。速攻、フリースローなどでじわじわとリードを広げる。さらに、終了間際には#8が3Pを入れ、結局31-21宇部工リードで終わる。3Qは宇部工の3Pが炸裂。#4#8#9#13で8本の3Pを決めて、61-27と一気にリードを広げる。4Qも#13#12の3Pを中心に得点を重ねた。結局、宇部工が合計18本の3Pを決め、79-33と下松工業に完勝した。

男子決勝リーグ 22日(土)	豊 浦	103	13 - 20	85	岩国工業
			26 - 20		
			29 - 24		
			35 - 21		

豊 浦 #9田中 #10坂根 #11河本 #12岸田 #14三池
 岩国工業 #4柿本 #5松永 #6朝来野 #8藤嶋 #10宮本

主審：有澤 重行
 副審：勝原 芳徳

ディフェンスは両チーム、マンツーマン。1Q立ち上り、豊浦#10のフリースロー、#11のミドルで4-0とリードするが岩国工も#6の3P、#4#5のジャンプショットなどで逆転、ゲームの主導権を握る。豊浦はその後、シュートが入らず苦しい展開となり、1Qは20-13の岩国工リードで終了。2Q、岩国工#5の3P、#6のインサイドで得点を重ねるが、豊浦も#11の1on1、#12の3Pなどで6分、27-29と追い上げ、岩国工は1回目のタイムアウトを取る。その後は一進一退の攻防となり40-39の岩国工1点リードで終了となる。3Qに入っても展開は変わらず、岩国工は#4を中心に得点を重ねる。一方、豊浦は#12の3P、#9#11の1on1で対抗。8分まで60-60の同点でゲームは進む。終了1分、豊浦#14のリバウンド、1on1で68-64とリードして終わる。4Q、岩国工はディフェンスをマッチアップゾーンにチェンジしたが、豊浦は3分までに、#12の連続3Pなどで81-68と一気にリードを広げた。結局、運動量の豊富な豊浦が103-85で勝利した。